

## 京都造形芸術大学通信教育部大学院修了式・芸術部卒業式式辞

2017年3月18日（土曜日）

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

京都造形芸術大学大学院芸術研究科（通信教育）を修了された70名の皆さん、芸術学部通信教育部を卒業された551名の皆さん、おめでとうございます。

今回は、今までで最も多い卒業生を送ることができました。今日の式典までに、ご家族の方々の支援があり、熱意のこもった添削指導とスクーリングに対する教員の努力がありました。また、皆さんはしっかりとそれらに応えて、今日の修了あるいは卒業の日を迎えられました。参列の学校法人瓜生山学園の役員、京都造形芸術大学の副学長、研究科長、学部長、教職員とともに、心からお祝いを申し上げます。

通信教育部では、添削指導で大量の作品などをやりとりする発送業務もたいへんです。多くの関係者の毎日の努力と、皆さんの努力が、今回の卒業・修了展に結実しています。関係の方々の日頃のご努力にも、あらためて敬意を表し、感謝申し上げます。

今年の印象に残ったいくつかの作品を紹介したいと思います。空間演出デザインコースの姜幸さんの作品「駄菓子日和」は、近所の子供たちのコミュニケーションの場を担っていた駄菓子屋さんに着目し、駄菓子を応用する新しいコミュニケーションツールを生み出そうというものです。266種類の駄菓子を調査し、駄菓子屋を取材して研究を進めました。その成果が見事にまとめられています。展示作品の前でのワークショップも開催されました。私も賞品をもらいましたが、籤は完売したそうです。姜さんのこの作品のことが、昨日の神戸新聞にも大きく紹介されました。

染織コースの松山紀子の「時季は廻る」は、四季の変化を美しく描きました。日本画コース岡安俊明さんは、「夢は枯野」で、よく観察された芒の姿を丁寧に描きました。洋画コース島田靖子さんの「集う」は、鮮やかな色彩で2枚の大作に異なる表現の力を見せました。建築デザインコース森下清恵さんの「桜を囲むお産の場 本に囲まれた育ちの場」では、優しさの溢れたデザインが印象に残りました。写真コース村井博美さんは、「ふかうら～思いをつなぐ～」で、白神山地への訪問で伝統文化を守り続ける人びとを知り、暮らしに参加しつつ撮影を続けています。作品には現地に受け入れられた作家の姿が浮き彫りにされています。

毎年思うのですが、これらの作品群の印象が、全体として昨年と異なったものになっています。それだけ個性豊かな作品が多いということだと思います。皆さんのこれからの活躍が、また一段と期待される作品群だと思いました。

京都造形芸術大学の通信教育部サイバーキャンパスのウェブサイトには、2004年度以来の掲載許諾のある卒業制作作品や卒業研究論文の要約があります。皆さんも、ぜひそこに作品を残していただきたく存じます。

デザイン科 Web 卒業制作展や日本画ブログなど、さまざまの形でも卒業作品が紹介されています。それらの情報発信を大いに支援していただきたいと思います。芸術作品やデザインは世界の多くの人びとの目に触れるように展示して批判を受けることによって、さら

に磨き上げられていくものです。作品を仕上げたら、どうやって多くの人に見てもらうかを工夫することも芸術活動の一環です。

企業に所属して学習を続けてきた方の中には、学習していることを会社に知られたくないという方もおられます。日本では生涯学習の重要性が言われています。学習を深めては新しい分野にも果敢に挑戦していく人材が大切です。通学部の教育方針の中でも、学部4年間で、生涯、学習を続けるための能力を身につけるのが大きな目標の一つであると私は考えています。それほどに生涯学習の機会は重要であり、本学の通信教育部ではその需要を受け止める機能をしっかりと整備して行きたいと思っています。日本の企業や団体が生涯学習に対する十分な理解を持つようになれば、持続可能な社会活動を具体化することができません。あらゆる機会にそのことを訴えていきたいと私は考えています。

京都造形芸術大学通信教育部で修士の学位を得られた方は現在までに610名、学士の学位を得られた方は、現在までに6269名になりました。出身の方たちが各地で活躍しています。皆さんの卒業、あるいは修了後の人生はさまざまですが、くれぐれも健康に留意され、何よりも元氣でご活躍くださるよう祈って、私の式辞といたします。修士および学士の学位を得られた皆さま、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。